

V. 心理社会的治療の有効性

Clozapine により治療抵抗性統合失調症の病状は大きく改善するが、それだけでは社会復帰が困難な例も多い。薬物療法の改善とともに心理社会的治療を並行して行うことで、clozapine 治療の効果を最大化できる。医療観察法では、豊富な人的資源が投入され濃密な心理教育が行われており、退院後も社会復帰調整官を中心とした地域支援体制が整備されている。医療観察法医療は、clozapine 治療効果を最大化できる体制が整備されており、以下にその内容を示す。

1. 心理教育

Clozapine の治療効果を最大化するためには、対象者が主体的に治療に参加し、自らの意思で clozapine 治療を選択することが望ましく、投与前から積極的に心理教育を行う必要がある。対象者に clozapine 治療を提案する時は、陽性症状のために円滑な社会生活が困難な状況を共有し、その症状を改善するために clozapine が必要なことを説明し、同意を得よう努めている。Clozapine 治療の標的症候を共有できていると、対象者はより治療効果を実感でき、clozapine を内服していきたいとの主体的な治療意欲が出てくる場合が多い。また、clozapine にて症状が改善していく経過をセルフモニタリングすることで、投与前からの継続的な改善を実感することが可能となる。

2. 地域支援体制

医療観察法病棟退院後は社会復帰調整官が中心となり、対象者が主体的に参加するケアマネジメント手法を用いた地域支援体制が構築される。Clozapine は重篤な副作用のリスクがあり、CPMS 登録された医療機関でしか処方できないことを説明すると地域支援者が特別な薬を飲んでいると捉え、不安を抱くことも多い。そのため家族や地域支援者も参加したケア会議を早期から開催し、clozapine の基本的な知識だけでなく、ガイドラインに沿って対応すれば副作用出現時も問題ないことを繰り返し説明することが大切である。琉球病

院では、包括的地域生活支援 (Ryukyu-Assertive Community Treatment : R-ACT) を整備し、現在では clozapine 内服中のほとんどの患者に R-ACT を導入し、外来治療移行後のフォロー体制を確立している。Clozapine 治療を受けた医療観察法通院中の対象者でも、このような地域支援体制を構築すれば、円滑な地域処遇は可能である。

現時点では clozapine を処方できる医療機関は少なく、医療観察法指定通院医療機関となるとさらに少ない現状がある。今後は、clozapine が処方できる医療機関が拡大することが対象者の社会復帰促進に繋がると考える。

VI. 医療観察法での clozapine の意義

医療観察法入院治療では8割以上が統合失調症に罹患しており、長期入院者の中には治療抵抗性統合失調症者が少なからず含まれている。その特徴は若年発症で病態水準が重く衝動性が高いこと、病状が不安定で回転ドア現象があること、殺人などの重大な他害行為のため社会復帰には十分な病状の安定が必要なこと等が挙げられ、社会復帰促進と退院後の地域生活安定のためには病状の安定が不可欠である。医療観察法では多職種による心理療法、社会復帰調整官を核とした地域支援体制が構造化されており、clozapine 治療の効果を最大化できる体制が既にある。Clozapine は治療抵抗性統合失調症に対する唯一の治療薬であり、その効果は非常に高く、医療観察法では必須の治療法である。

また、医療観察法では治療反応性を有することが医療必要性の判断基準の1つである。対象者が治療抵抗性統合失調症の場合は、治療反応性や処遇終了等の判断は clozapine 治療を行った上で判断する必要がある。

医療観察法第1条で示されているように治療の最終目的は社会復帰である。豊富な人的資源が投入され高度な医療が提供できる医療観察法では clozapine が標準的な治療法になる必要がある。諸外国に遅れはとっているが、司法精神医学の中で clozapine 治療が標準的な治療となることを期待している。

文 献

- 1) 平林直次, 松本聡子, 新井 薫 他: 医療観察法における医療の質の向上に関する研究 入院医療における治療プログラムの多様化に関する研究 平成22年度総括・分担研究報告書. 厚生労働科学研究, 2011.
- 2) Kane, J., Honigfeld, G., Singer, J. et al.: Clozapine for the treatment-resistant schizophrenic. A double-blind comparison with chlorpromazine. Arch. Gen. Psychiatry, 45: 789-796, 1988.
- 3) 木田直也, 大鶴 卓, 福田貴博 他: クロザピンの有効性とその臨床的意義. 精神医学, 54: 1145-1150, 2012.
- 4) Meltzer, H.Y.: Dimensions of outcome with clozapine. Br. J. Psychiatry Suppl., 17: 46-53, 1992.
- 5) 村上 優: 医療観察法における医療の質の向上に関する研究 入院医療の質向上と標準化に関する研究 平成22年度総括・分担研究報告書. 厚生労働科学研究, 2011.
- 6) 大鶴 卓: 医療観察法における治療抵抗性. 日本社会精神医学会雑誌, 20: 423-425, 2011.
- 7) Taylor, D., Paton, C., Kapur, S.: モーズレイ処方ガイドライン第10版 (内田裕之, 鈴木健文, 渡邊衡一郎 訳). アルタ出版, 東京, 2011.

